

《よこしん》 景況レポート

NO.133
2024年10月

YOKOSHIN BUSINESS INFORMATION

景気動向調査 1

2024年7～9月期実績、10～12月期予想

◇ 全業種総合	業況・収益DI共に改善を継続、 来期は業況・売上額・収益DI共に改善する見込み	2
◇ 製造業	業況・収益DI共に改善が継続、 来期も業況・収益DI共に改善が継続する見込み	3
◇ 卸売業	業況・収益DI共に悪化、 来期は業況・売上額・収益DI共に改善する見込み	4
◇ 小売業	業況・売上額DI共に悪化、 来期は業況・売上額・収益DI共に改善を見込む	5
◇ サービス業	業況DIは悪化、 来期は業況・収益DI共に改善の見込み	
◇ 建設業	業況・売上額・収益DI共に改善、 来期は業況・売上額・収益DI共に悪化する見込み	6
◇ 不動産業	業況DIは改善、 来期の業況DIは横ばいの見込み	
◇ コメント		7

特別調査「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」..... 8

- ・事業上の情報収集や情報発信等における
 - インターネットの利用について 利用しており、自社ホームページも開設（67.4%）
 - 電子メールの利用について 利用している（88.1%）
- ・インターネットバンキング
 - 契約理由と状況 金融機関の店舗に行く必要がない（27.1%）
 - 契約していない理由 利用する機会がない（52.5%）
- ・新紙幣の発行に伴う対応（設備投資など）について
 - 新紙幣発行に伴う対応 対応の必要性を感じていない（78.5%）
 - キャッシュレス支払手段への対応 導入していない（75.0%）
- ・キャッシュレス支払手段の活用状況について クレジットカード（28.8%）
- ・キャッシュレス支払手段への不満について 不満などはない（24.8%）

このまちの未来をともにつくる



横浜信用金庫

景気動向調査

2024 年 7～9 月期実績、10～12 月期予想

《 概 況 》

業況DI(全業種総合)は改善、来期も改善が継続する見込み

今期の全業種総合業況判断DIは、前期比1.0ポイント上昇の7.7と改善した。

製造業は前期比1.0ポイント上昇の4.9、非製造業は同1.2ポイント上昇の9.2となった。

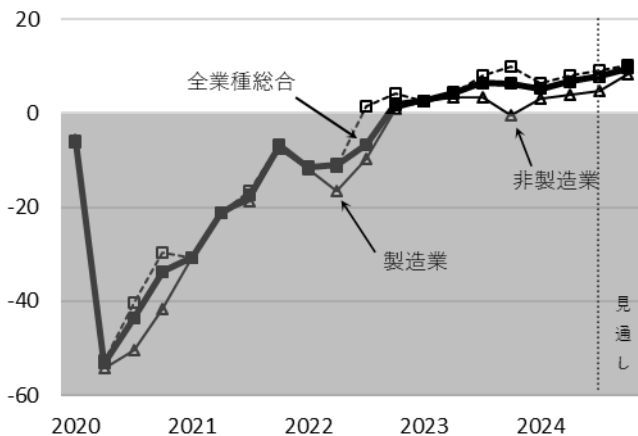
来期の全業種総合業況判断DIは、今期比1.8ポイント上昇の9.5と改善の継続を見込む。

< 業況DI天気図 >

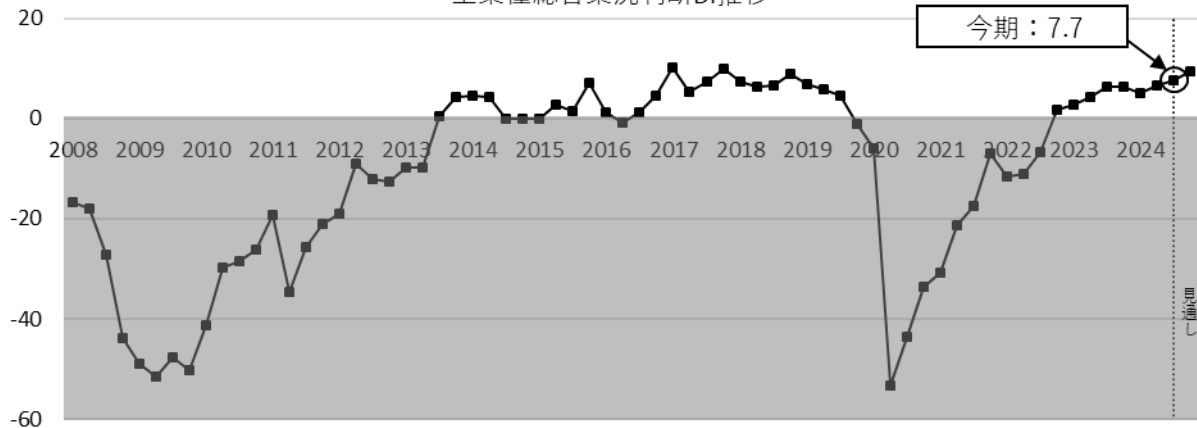
	2024年 4-6月	7-9月	(予想) 10-12月	方向
全 体	6.7	7.7	9.5	↗
製 造 業	3.9	4.9	8.4	↗
非 製 造 業	8.0	9.2	10.1	↗
卸 売 業	11.3	2.8	7.0	↗
小 売 業	▲2.2	▲6.5	▲5.4	↗
サービス業	10.1	6.1	11.1	↗
建 設 業	18.5	28.4	24.1	↘
不 動 産 業	▲3.0	9.0	9.0	→

低調 ← → 好調

業種別業況判断DI推移



全業種総合業況判断DI推移



《調査要領》

- 調査時期／2024 年 9 月上旬
 - 調査対象／当金庫取引先（法人・個人事業者）
 - 調査方法／営業店職員による聞き取り調査
 - 分析方法／DI（Diffusion Index）による分析
- ※DIとは、「良い・増加・上昇・過剰」の回答全体に占める割合と「悪い・減少・下降・不足」の回答全体に占める割合との差を表し、景気判断や景気変化の方向を計る数値

	調査先	回答先	回答率
製 造 業	227	226	99.6%
卸 売 業	71	71	100.0%
小 売 業	93	92	98.9%
サービス業	99	99	100.0%
建 設 業	119	116	97.5%
不 動 産 業	67	67	100.0%
合 計	676	671	99.3%

< 今 期 >

業況・収益DI共に改善を継続

今期の全業種総合業況判断DI（良い－悪い）は、前期比1.0ポイント上昇の7.7となり、改善が継続した。

売上額DI（増加－減少）は前期比1.7ポイント低下の13.5、収益DI（増加－減少）は同1.5ポイント上昇の6.4となった。

販売価格DI（上昇－下降）は前期比2.1ポイント上昇の29.6、仕入価格DI（上昇－下降）は同5.0ポイント低下の45.0となった。

在庫DI（過剰－不足）は前期比0.9ポイント低下の0.7、資金繰りDI（楽－苦しい）は同0.3ポイント低下の－1.2となった。

借入実施企業割合は26.5%と、前期比0.3ポイント低下した。設備投資実施企業割合は、同0.1ポイント低下の12.5%であった。

雇用面では人手DI（過剰－不足）が、前期比1.2ポイント低下の－21.0となった。

< 来 期 >

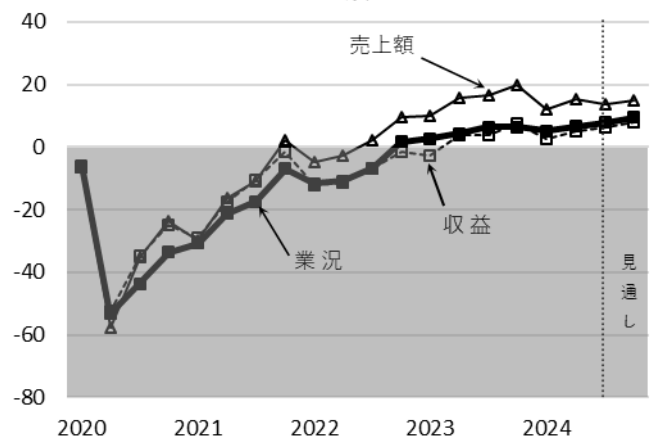
来期は業況・売上額・収益DI共に改善する見込み

来期の全業種総合業況判断DIは今期比1.8ポイント上昇の9.5、売上額DIは同1.5ポイント上昇の15.0、収益DIは同1.6ポイント上昇の8.0となり、業況・売上額・収益DIは共に改善を見込んでいる。

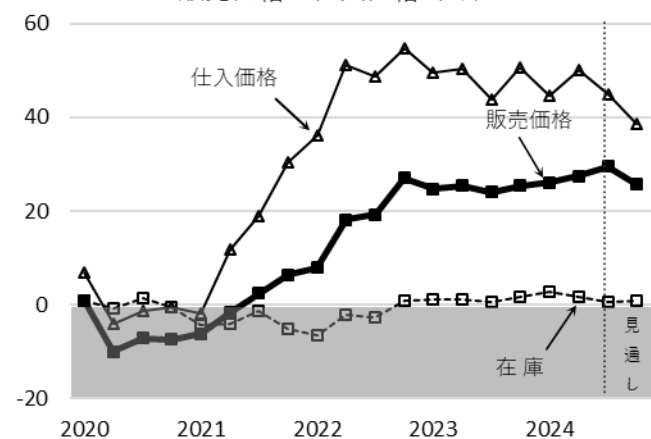
販売価格DIは今期比3.9ポイント低下の25.7を見込んでいる。仕入価格DIは同6.4ポイント低下の38.6を見込む。

人手DIは今期比0.4ポイント低下の－21.4と悪化の継続を見込んでいる。

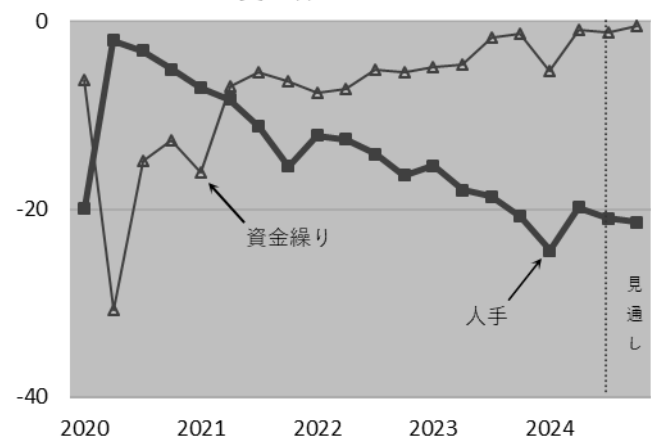
業況・売上額・収益DI



販売価格・仕入価格・在庫DI



資金繰り・人手DI



< 全業種総合 主要DI >

	2023年 10-12月	2024年 1-3月	4-6月	7-9月	(予想) 10-12月	方向
業 況 判 断	6.4	5.2	6.7	7.7	9.5	↗
売 上 額	20.0	12.0	15.2	13.5	15.0	↗
収 益	7.4	2.7	4.9	6.4	8.0	↗
販 売 価 格	25.4	26.2	27.5	29.6	25.7	↘
仕 入 価 格	50.5	44.5	50.0	45.0	38.6	↘
在 庫	1.6	2.8	1.6	0.7	0.9	↗
資 金 繰 り	▲1.3	▲5.3	▲0.9	▲1.2	▲0.4	↗
人 手	▲20.8	▲24.4	▲19.8	▲21.0	▲21.4	↘

< 今 期 >

業況・収益 DI 共に改善が継続、
売上額 DI は悪化

今期の業況判断DIは、前期比1.0ポイント上昇の4.9となった。

売上額DIは前期比3.1ポイント低下の12.3、収益DIは同3.1ポイント上昇の8.8であった。

販売価格DIは前期比2.1ポイント低下の24.2、原材料価格DIは同10.4ポイント低下の44.9となった。

原材料在庫DIは、前期比1.3ポイント低下の4.4、資金繰りDIは、同0.8ポイント上昇の10.2となった。

借入実施企業割合は23.5%と、前期比0.7ポイント低下した。設備投資実施企業割合は、同1.6ポイント低下の12.9%であった。

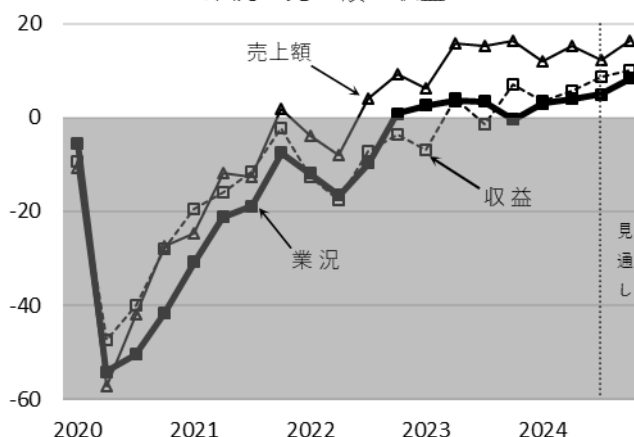
人手DIは、前期比4.3ポイント上昇し、-22.0となった。

< 来 期 >

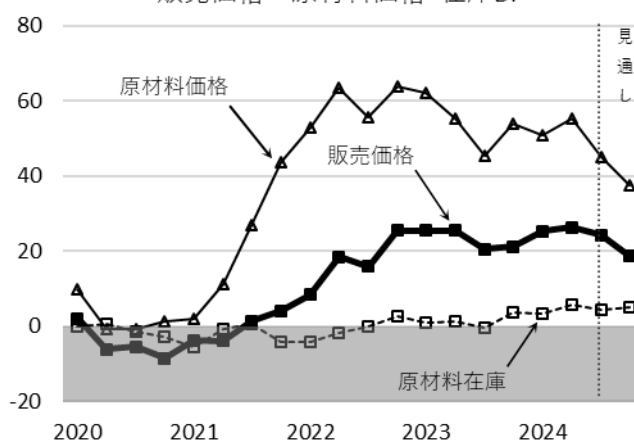
来期も業況・収益 DI 共に改善が継続する見込み

来期の業況判断DIは今期比3.5ポイント上昇の8.4、売上額DIは同4.0ポイント上昇の16.3、収益DIは同1.4ポイント上昇の10.2を見込んでいる。

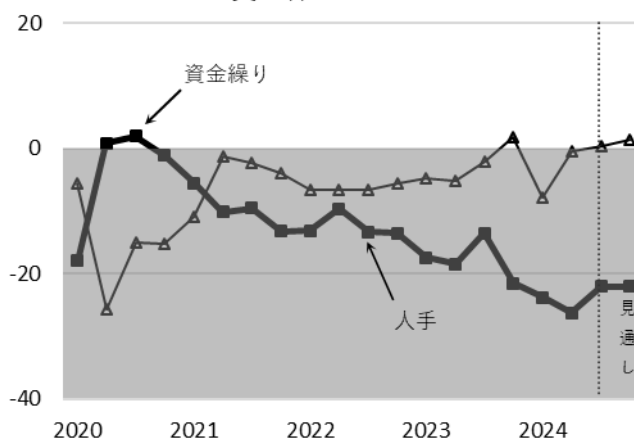
業況・売上額・収益DI



販売価格・原材料価格・在庫DI



資金繰り・人手DI



< 製造業 主要DI >

	2023年 10-12月	2024年 1-3月	4-6月	7-9月	(予想) 10-12月	方向
業 況 判 断	▲ 0.4	3.1	3.9	4.9	8.4	↗
売 上 額	16.3	11.9	15.4	12.3	16.3	↗
収 益	7.0	3.5	5.7	8.8	10.2	↗
販 売 価 格	21.1	25.2	26.3	24.2	18.5	↘
原 材 料 価 格	53.7	50.7	55.3	44.9	37.4	↘
原 材 料 在 庫	3.5	3.1	5.7	4.4	4.8	↗
資 金 繰 り	1.8	▲ 7.9	▲ 0.4	0.4	1.3	↗
人 手	▲ 21.6	▲ 23.8	▲ 26.3	▲ 22.0	▲ 22.0	→

< 個別業種 >

改善が3業種、悪化が4業種

< 今 期 >

10 社以上回答のあった個別業種（7業種）の業況判断DIは、改善が3業種、悪化が4業種であった。
精密機械器具は前期比21.6ポイント上昇の26.9、金属製品・その他は同8.0ポイント上昇の8.0となった。
一方、一般機械器具は前期比34.7ポイント低下の-21.4、プラスチック製品は同17.4ポイント低下の-11.1となった。

< 来 期 >

来期の業況判断DIは2業種で改善、4業種で横ばい、1業種で悪化を見込んでいる。

< 注 > 10 社以上回答のあった個別業種（7業種）
プラスチック製品、金属製品・その他、金属プレス・メッキ、
一般機械器具、電気機械器具、精密機械器具、食料品

< 業種別 業況判断DI >

	2023年 10-12月	2024年 1-3月	4-6月	7-9月	(予想) 10-12月	方向
部 品 加 工 型	0.9	6.1	1.8	2.8	9.4	↗
プラスチック製品	12.5	▲18.8	6.3	▲11.1	▲11.1	→
金属製品・その他	0.0	16.9	0.0	8.0	17.3	↗
金属プレス・メッキ	▲7.1	▲26.7	7.1	▲7.7	▲7.7	→
機 械 器 具 型	▲1.6	▲9.8	9.2	7.0	5.6	↘
一般機械器具	▲16.7	0.0	13.3	▲21.4	▲7.1	↗
電気機械器具	10.0	▲8.3	9.1	4.2	▲8.3	↘
精密機械器具	▲4.2	▲20.8	5.3	26.9	26.9	→
消 費 財 型	8.7	33.3	4.0	8.3	8.3	→
食 料 品	7.1	26.7	0.0	6.7	6.7	→

非製造業

(回答先 445)

■ 卸売業 (回答先 71)

業況・収益 DI 共に悪化、
来期は業況・売上額・収益 DI 共に
改善する見込み

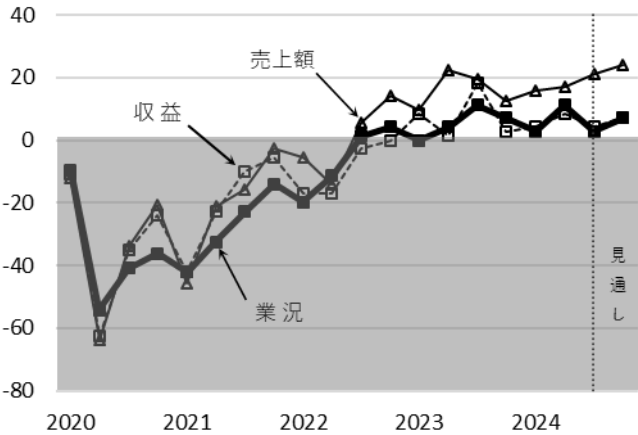
< 今 期 >

今期の業況判断DIは、前期比8.5ポイント低下の2.8となった。
売上額DIは前期比4.2ポイント上昇の21.1、
収益DIは同4.3ポイント低下の4.2となった。
販売価格DIは前期比2.9ポイント上昇の43.7、仕入価格DIは同9.9ポイント低下の50.7となった。

< 来 期 >

来期の業況判断DIは今期比4.2ポイント上昇の7.0、売上額DIは同2.8ポイント上昇の23.9、
収益DIは同2.8ポイント上昇の7.0を見込んでいる。

業況・売上額・収益DI



< 卸売業 主要DI >

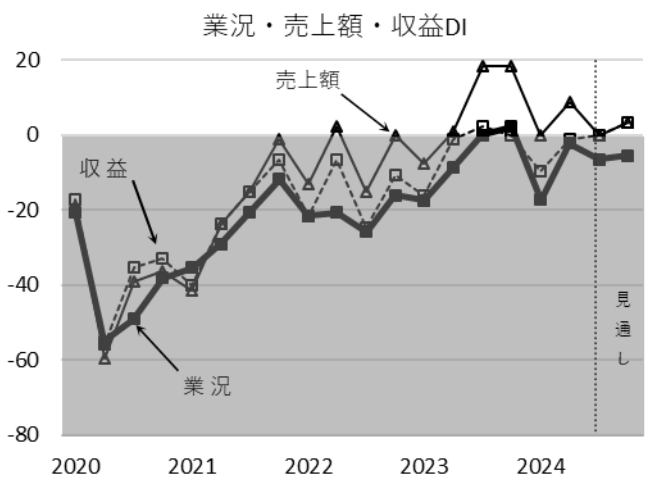
	2023年 10-12月	2024年 1-3月	4-6月	7-9月	(予想) 10-12月	方向
業 況 判 断	7.0	2.8	11.3	2.8	7.0	↗
売 上 額	12.7	15.7	16.9	21.1	23.9	↗
収 益	2.8	4.2	8.5	4.2	7.0	↗
販 売 価 格	28.2	29.6	40.8	43.7	38.0	↘
仕 入 価 格	45.1	43.7	60.6	50.7	46.5	↘
在 庫	1.4	5.6	2.8	5.6	8.5	↗
資 金 繰 り	▲2.9	▲2.8	▲2.8	▲8.5	▲7.0	↗
人 手	▲5.6	▲19.7	▲8.5	▲17.4	▲15.9	↗

■ 小売業 （ 回答先 92 ）

業況・売上額 DI 共に悪化、
来期は業況・売上額・収益 DI 共に改善を見込む

＜今 期＞
今期の業況判断DIは、前期比4.3ポイント低下の-6.5となった。
売上額DIは前期比8.7ポイント低下の0.0、
収益DIは同1.1ポイント上昇の0.0となった。
販売価格DIは前期比16.3ポイント上昇の44.6、仕入価格DIは同13.0ポイント上昇の57.6となった。

＜来 期＞
来期の業況判断DIは今期比1.1ポイント上昇の-5.4、売上額DIは同3.3ポイント上昇の3.3、収益DIは同3.3ポイント上昇の3.3を見込んでいる。



＜ 小売業 主要DI＞

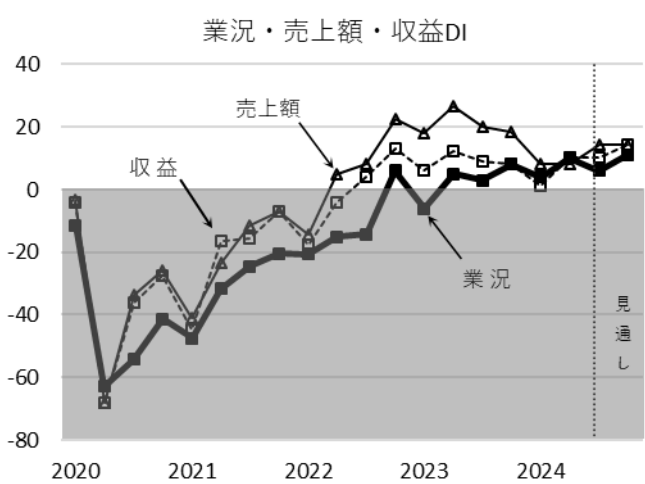
	2023年	2024年			(予想)	方向
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
業 況 判 断	2.2	▲17.2	▲2.2	▲6.5	▲5.4	↗
売 上 額	18.3	0.0	8.7	0.0	3.3	↗
収 益	0.0	▲9.7	▲1.1	0.0	3.3	↗
販 売 価 格	35.5	28.0	28.3	44.6	33.7	↘
仕 入 価 格	57.0	47.3	44.6	57.6	43.5	↘
在 庫	3.2	8.6	▲3.3	▲7.6	▲7.6	→
資 金 繰 り	▲12.9	▲19.4	▲10.9	▲16.3	▲10.9	↗
人 手	▲10.8	▲15.2	▲7.6	▲7.6	▲9.8	↘

■ サービス業 （ 回答先 99 ）

業況DIは悪化、
来期は業況・収益DI共に改善の見込み

＜今 期＞
今期の業況判断DIは、前期比4.0ポイント低下の6.1となった。
売上額DIは前期比6.0ポイント上昇の14.1、
収益DIは同横ばいの10.1となった。
料金価格DIは前期比2.0ポイント上昇の21.2、材料価格DIは同5.0ポイント上昇の34.3となった。
人手DIは、前期比1.3ポイント低下の-29.6となった。

＜来 期＞
来期の業況判断DIは今期比5.0ポイント上昇の11.1、売上額DIは同横ばいの14.1、収益DIは同4.0ポイント上昇の14.1を見込んでいる。



＜ サービス業 主要DI＞

	2023年	2024年			(予想)	方向
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
業 況 判 断	8.2	4.1	10.1	6.1	11.1	↗
売 上 額	18.4	8.2	8.1	14.1	14.1	→
収 益	8.2	1.0	10.1	10.1	14.1	↗
料 金 価 格	16.3	11.2	19.2	21.2	21.2	→
材 料 価 格	37.1	22.4	29.3	34.3	31.3	↘
資 金 繰 り	▲8.2	▲7.1	0.0	3.0	0.0	↘
人 手	▲26.8	▲32.7	▲28.3	▲29.6	▲29.6	→

■ 建設業（回答先 116）

業況・売上額・収益DI 共に改善、
来期は業況・売上額・収益DI 共に
悪化する見込み

<今 期>

今期の業況判断DIは、前期比9.9ポイント上昇の28.4となった。

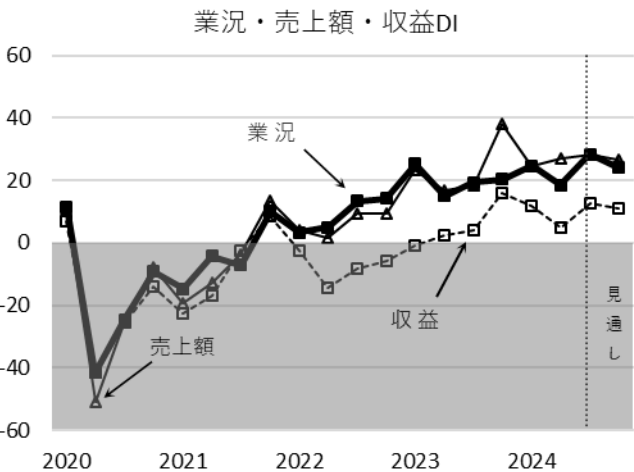
売上額DIは前期比1.3ポイント上昇の28.2、
収益DIは同7.8ポイント上昇の12.8となった。

請負価格DIは前期比4.7ポイント上昇の30.8、
材料価格DIは同11.8ポイント低下の47.0となった。

人手DIは、前期比5.3ポイント低下の-33.9となった。

<来 期>

来期の業況判断DIは今期比4.3ポイント低下の24.1、
売上額DIは同1.7ポイント低下の26.5、
収益DIは同1.7ポイント低下の11.1を見込んでいる。



< 建設業 主要DI >

	2023年	2024年			(予想)	方向
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
業況判断	20.3	24.6	18.5	28.4	24.1	↘
売上額	38.1	24.6	26.9	28.2	26.5	↘
収益	16.1	12.0	5.0	12.8	11.1	↘
請負価格	28.0	33.1	26.1	30.8	28.2	↘
材料価格	59.3	44.9	58.8	47.0	41.0	↘
在庫	3.4	0.8	0.8	0.0	0.0	→
資金繰り	5.9	7.6	6.7	10.3	11.1	↗
人手	▲38.1	▲36.4	▲28.6	▲33.9	▲34.8	↘

■ 不動産業（回答先 67）

業況DIは改善、
来期の業況DIは横ばいの見込み

<今 期>

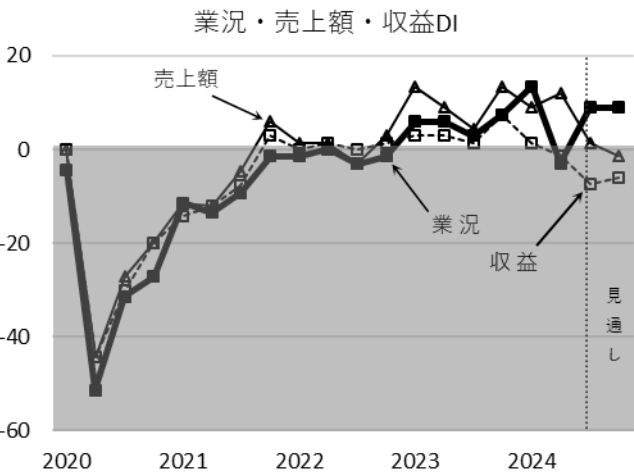
今期の業況判断DIは前期比12.0ポイント上昇の9.0となった。

売上額DIは、前期比10.4ポイント低下の-1.5、
収益DIは同6.0ポイント低下の-6.0となった。

販売価格DIは前期比8.9ポイント低下の22.4、
仕入価格DIは同9.0ポイント低下の34.3となった。

<来 期>

来期の業況判断DIは今期比横ばいの9.0、
売上額DIは同3.0ポイント低下の-1.5、
収益DIは同1.5ポイント上昇の-6.0を見込んでいる。



< 不動産業 主要DI >

	2023年	2024年			(予想)	方向
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
業況判断	7.5	13.4	▲3.0	9.0	9.0	→
売上額	13.4	9.0	11.9	1.5	▲1.5	↘
収益	7.5	1.5	▲1.5	▲7.5	▲6.0	↗
販売価格	31.3	32.8	31.3	22.4	28.4	↗
仕入価格	40.3	52.2	43.3	34.3	34.3	→
在庫	▲10.4	▲6.0	▲6.0	▲4.5	▲7.5	↘
資金繰り	3.0	0.0	▲1.5	▲4.5	▲6.0	↘
人手	▲9.0	▲10.4	1.5	▲4.5	▲6.0	↘

＜製造業＞

- ・ 新紙幣の発行により製造部品の需要が高まっている。〔金属製品〕
- ・ 仕入価格の高騰や大手メーカーとの価格競争等により売上・利益率共に減少傾向。
〔衣服・その他の繊維製品〕
- ・ 人材の採用活動が順調にいかず人員不足が予想される。〔電気機械器具〕

＜卸売業＞

- ・ 猛暑によりエアコンの売上は好調に推移。〔その他〕
- ・ 物価高の影響で売上額が上昇傾向にあり、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できている。〔化学製品〕
- ・ 売上の停滞・減少対策として海外への販路拡大を模索中。〔再生資源〕

＜小売業＞

- ・ 業務の生産性向上により売上が微減するも収益率は向上する見込み。〔その他〕
- ・ 食料品の仕入価格上昇により利幅縮小、今後の仕入価格上昇に懸念あり。〔飲食料品〕
- ・ 円安により仕入価格が高騰し、収益力が低下。〔写真機・時計・眼鏡・貴金属〕

＜サービス業＞

- ・ 引き合いは多いが、人手不足による機会損失が発生。〔その他〕
- ・ 従業員の高齢化が課題となっているが、若手人材の確保に苦戦。〔その他〕
- ・ 人手不足解消のため技能実習生を雇用。〔自動車整備および駐車場業〕

＜建設業＞

- ・ 後継者不足や職人不足により古くからの外注先が減少。〔総合工事〕
- ・ 外注に出す割合が増加したため、収益率は低下した。〔設備工事〕
- ・ 材料費や人件費の上昇により採算確保に懸念あり。〔識別工事（タイル工事）〕

＜不動産業＞

- ・ リフォーム受注増加も材料費の上昇により利益減少。〔不動産代理・仲介〕
- ・ 管理物件の入居率高く、経常的に一定の売上を確保。〔貸家業・貸間業〕

特別調査「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」

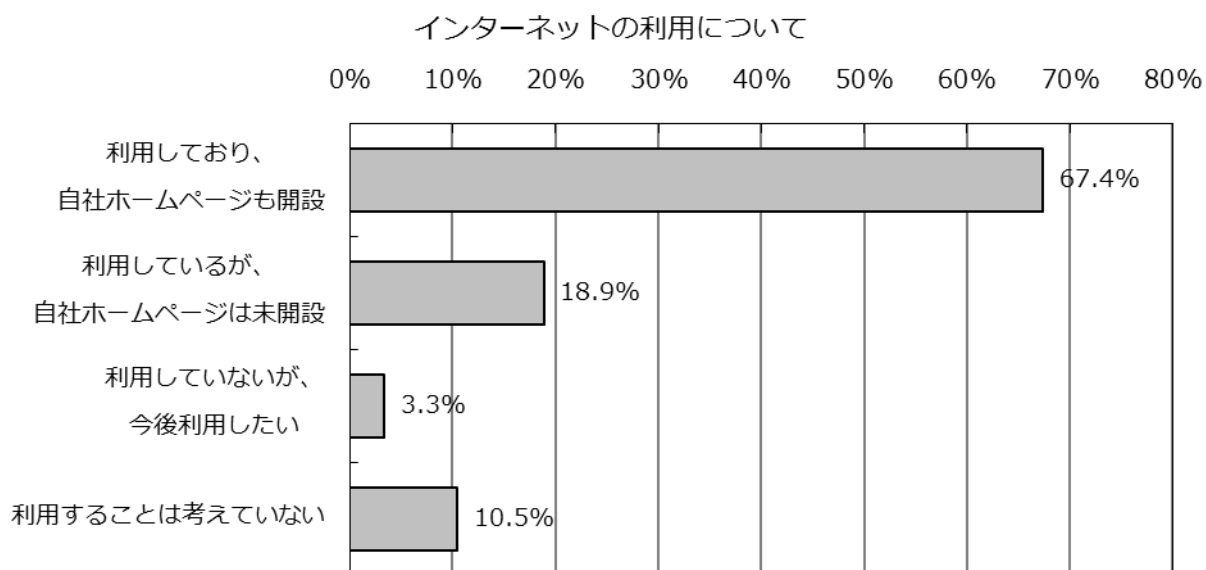
※回答により合計が100%とならない場合があります。

Q1. 事業上の情報収集や情報発信等におけるインターネットや電子メールの利用について

【インターネットの利用】

「利用しており、自社ホームページも開設」(67.4%)が最多

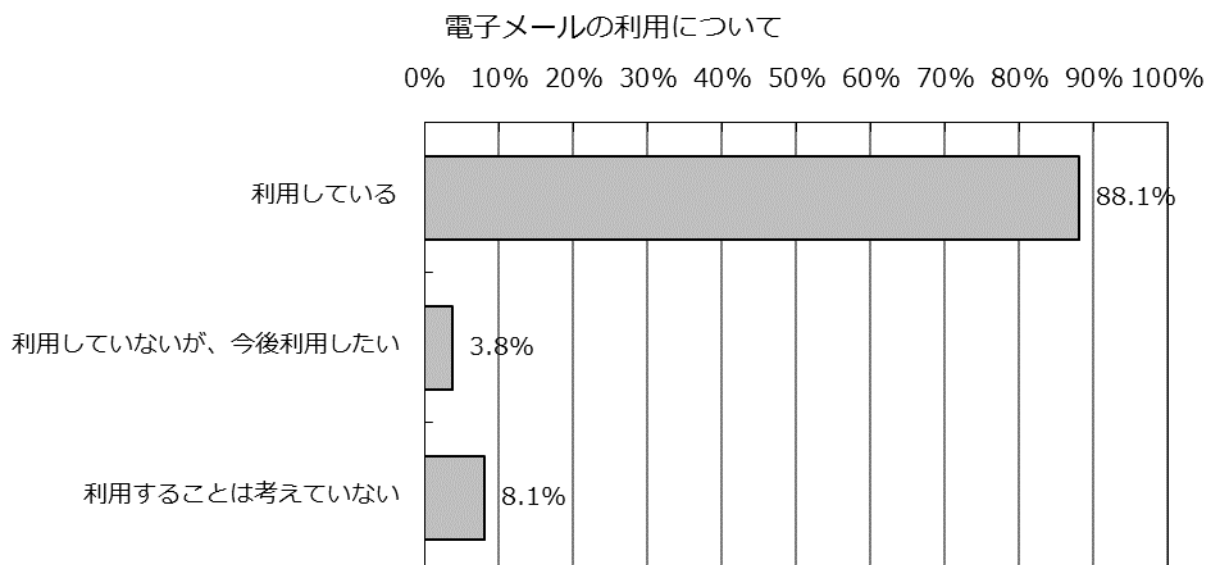
事業上の情報収集や情報発信等におけるインターネットの利用については、「利用しており、自社ホームページも開設」(67.4%)が最多回答であった。次いで「利用しているが、自社ホームページは未開設」(18.9%)、が続いた。



【電子メールの利用】

「利用している」(88.1%)が最多回答

事業上の情報収集や情報発信等における電子メールの利用については、「利用している」(88.1%)が最多回答であり、約9割の事業者が利用している。

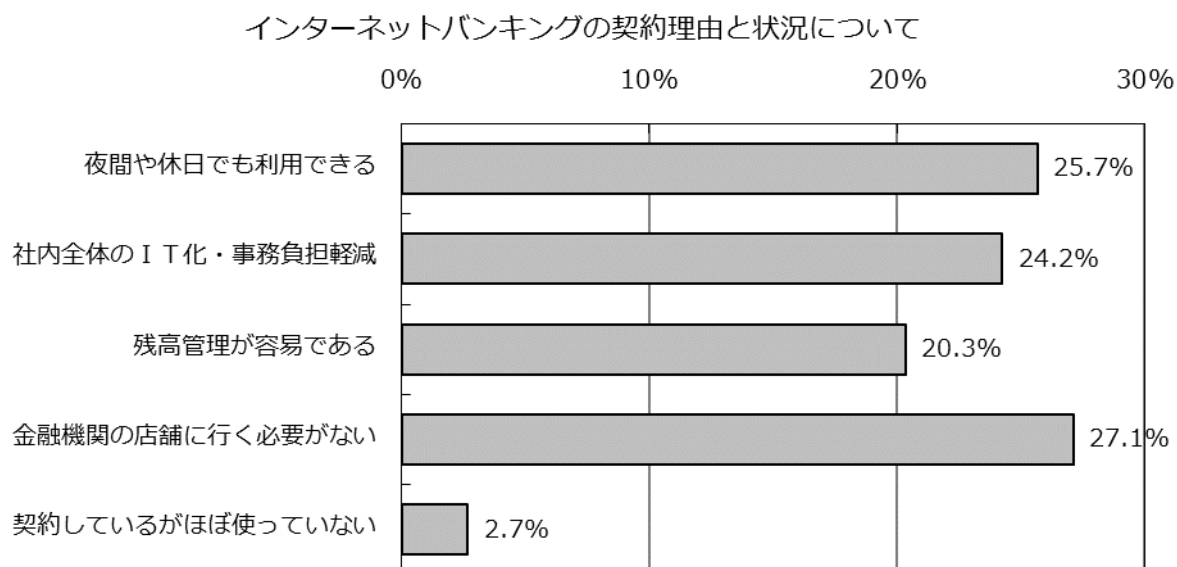


Q2. インターネットバンキングの契約について

【インターネットバンキングの契約理由と状況】

「金融機関の店舗に行く必要がない」(27.1%)が最多回答

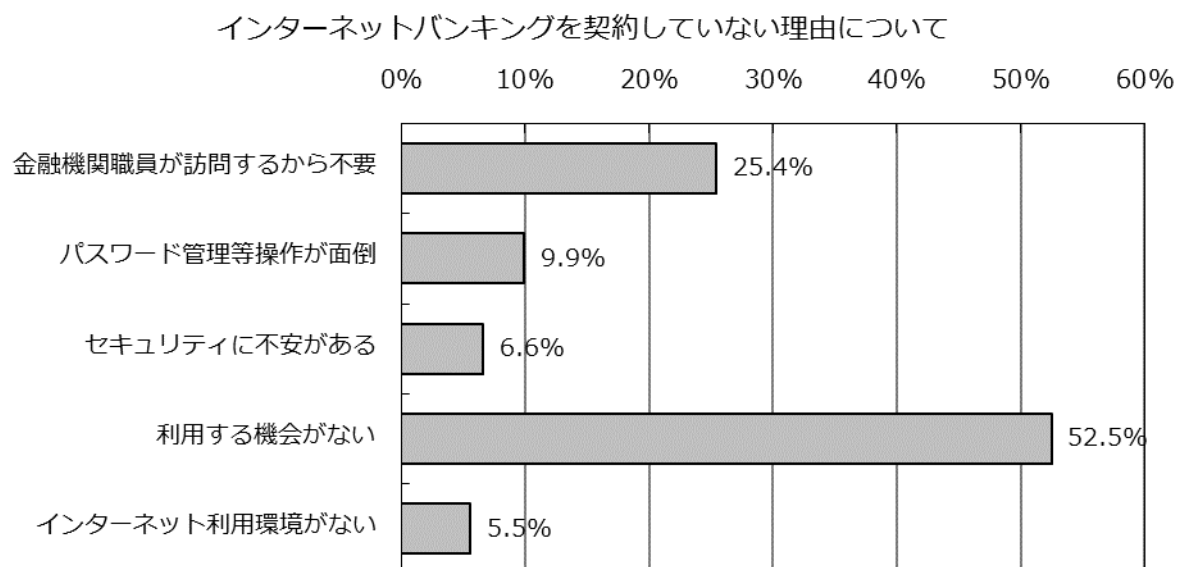
インターネットバンキングの契約理由と状況については、「金融機関の店舗に行く必要がない」(27.1%)が最多回答であった。次いで「夜間や休日でも利用できる」(25.7%)が続いた。



【インターネットバンキングを契約していない理由】

「利用する機会がない」(52.5%)が最多回答

インターネットバンキングを契約していない理由については、「利用する機会がない」(52.5%)が最多回答となった。次いで、「金融機関職員が訪問するから不要」(25.4%)が続いた。



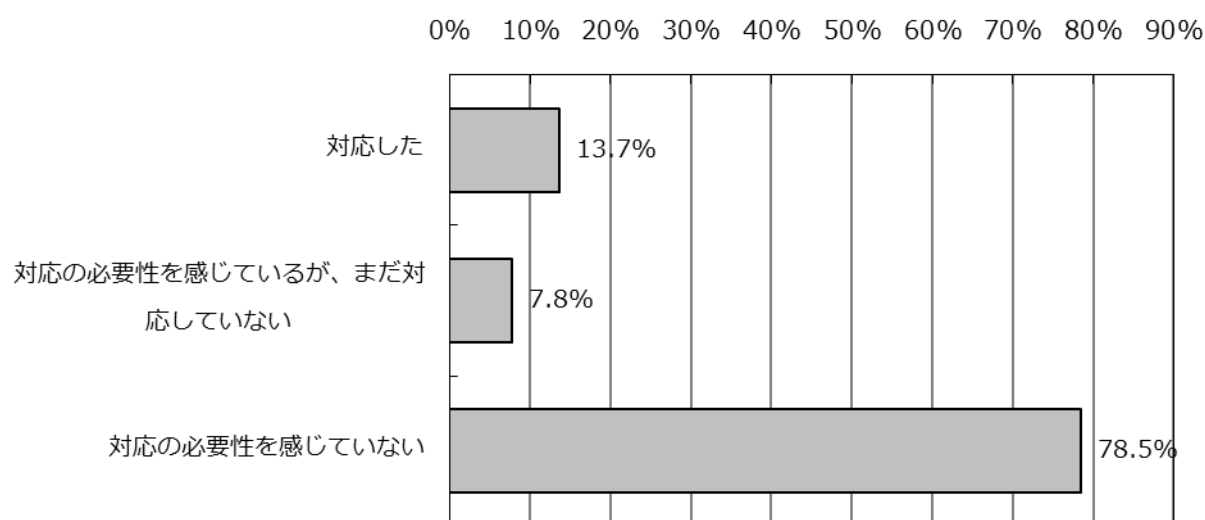
Q3. 新紙幣の発行に伴う対応（設備投資など）について

【新紙幣発行に伴う対応】

「対応の必要性を感じていない」(78.5%)が最多回答

新紙幣の発行に伴う対応（設備投資など）については、「対応の必要性を感じていない」（78.5%）が最多回答であった。業種別でも各業種の最多回答は「対応の必要性を感じていない」となっており、「対応した」の回答割合が最大の業種は小売業（41.3%）であった。

新紙幣の発行に伴う対応について

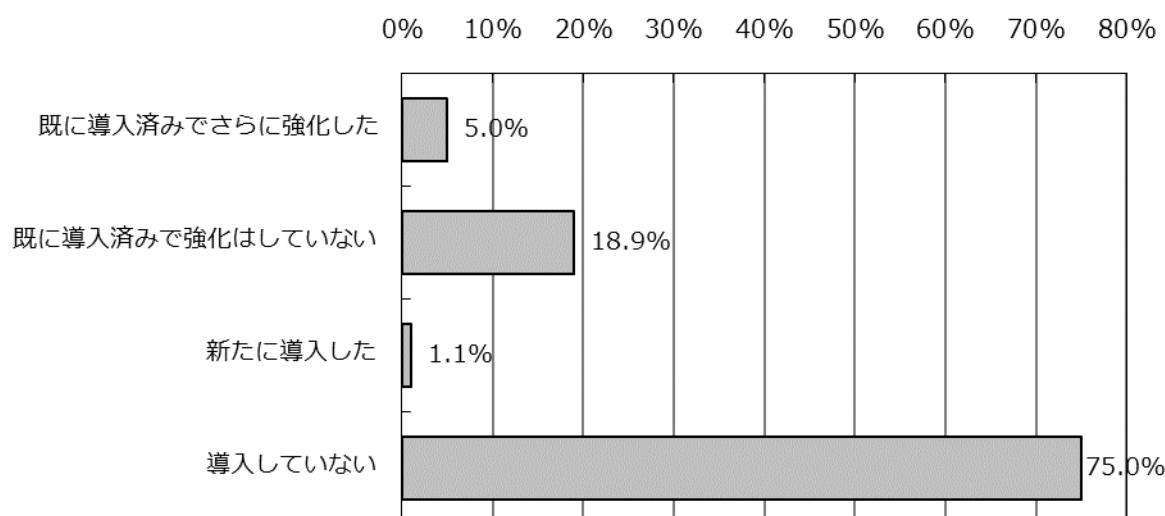


【新紙幣導入を契機としたキャッシュレス支払手段への対応】

「導入していない」(75.0%)が最多回答

新紙幣の導入を契機としたキャッシュレス支払手段への対応については、「導入していない」（75.0%）が最多回答であった。次いで、「既に導入済みで強化はしていない」（18.9%）が続いた。

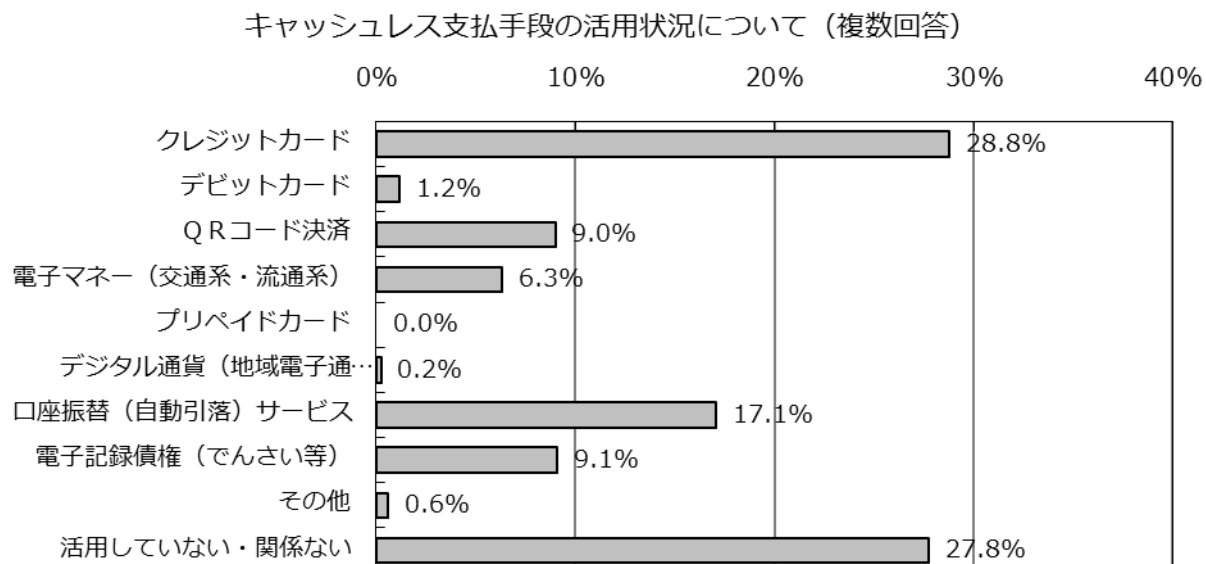
新紙幣導入を契機としたキャッシュレス支払手段への対応について



Q4. キャッシュレス支払手段の活用状況について

「クレジットカード」(28.8%)が最多回答

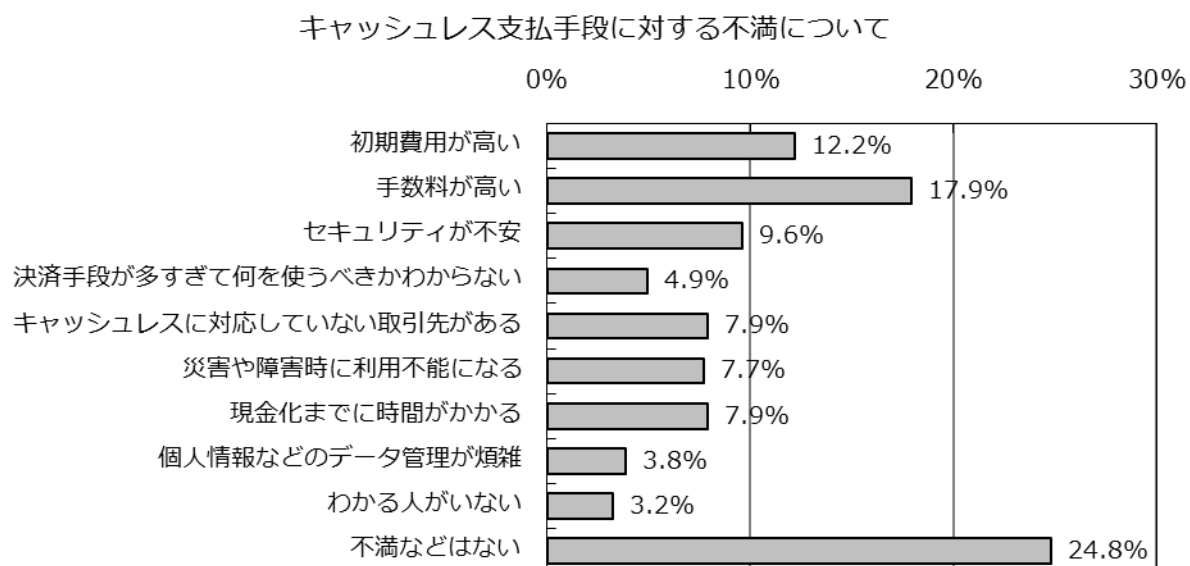
取引先や顧客との決済に活用しているキャッシュレス支払手段では、「クレジットカード」(28.8%)が最多回答で、次いで「活用していない・関係ない」(27.8%)が続いた。



Q5. キャッシュレス支払手段に対して感じている不満について

「不満などはない」(24.8%)が最多回答

キャッシュレス支払手段に対して感じている不満については、「不満などはない」(24.8%)が最多回答、次いで、「手数料が高い」(17.9%)が続いた。



今回の誌上セミナーは休載とさせていただきます。

《よこしん》景況レポート

2024 年 10 月発行 NO.133

横浜信用金庫 経営企画部

〒231-8466 横浜市中区尾上町 2 丁目 16 番地 1

TEL. 045-680-6912